

創部4年目を迎えた松波総合病院(羽島郡笠松町田代)柔道部が、躍進を見せている。6月の全日本実業柔道団体対抗大会男子3部で準優勝し、2部昇格が決まった。5月の県体重別選手権でも3階級を制覇。部員たちは、選手と医療人の「二刀流」に挑みつつ、柔道を通じた社会貢献活動にも力を注ぐ。

(田代理加)

医療人と柔道“二刀流”

選手は男子8人、女子1人。夕方、業務を終えると敷地内の「文武両道館 柔道場」に集まってくる。多くが事務系の職員として働いているが、中には看護師や介護福祉士といった専門職もいる。部員の一人、尾崎良慶さん

(24)は高度治療室(HCU)所属の看護師。岐阜市出身で、幼少期から柔道に打ち込み、高校は県外の強豪校に進んだ。医療系大学への進学を機に競技生活にピリオドを打った。2年前、看護師として同病院に就職が決まると、柔道部

の存在を知り入部を決意。「まさか働きながら柔道ができるとは思わなかった。仕事と両立は大変だが、これまで辞めようと思ったことはない」と語る。

勤後にウェイトトレーニングなど一人で行える強化策を模索し、6月の団体大会ではメンバー入りを果たした。部の設立理念は、競技を続けるながら地域の医療現場で活躍できる人材育成。自らも有段者である総監督の松波英寿

同病院理事長は「心技体を鍛えること、常に向上する気持ちを持つことは、医療従事者としても大切な要素」と語る。

業務は日勤と夜勤の交代制で、夜までの「ロング日勤」もある。全体練習に参加できるのは日勤の日に限られる。「命を預かる職なので、業務の前(夜勤前)に体を追い込むことはしない」。ロング日

選手には、院内給食に携わる

挑戦する姿、患者を鼓舞

そび」を初開催。追いかけてこやバランス運動などで柔道場を駆け回り、部員らが上手な転び方など「受け身」も伝えた。企画した松井陽子監督は「体を動かす楽しさを知ってもらい、そこから柔道人口の拡大につながれば」と願う。今後も定期的に行っていく予定だ。

松波理事長は「選手の活躍は病气と向き合う患者を鼓舞することにもつながる。いずれはオリンピック選手を出したい」と話している。

岐阜新聞
Webに動画

看護師として働く尾崎良慶さん(左)と事務職の藤井光一さん。ともに柔道部員として活躍している＝同病院

業務後、全体練習に打ち込む選手たち＝羽島郡笠松町田代、松波総合病院「文武両道館 柔道場」



松波病院柔道部、創部4年で躍進

